

## 【 畑作振興について 】 村田光成 R4.12.2 (一般質問)

### (1) 畑作振興について

国内において本道のみで生産されている、てん菜は、小麦や豆類、馬鈴しょとともに本道の畑作農業に欠かせない作物であり、また、てん菜から生産される砂糖は、体の重要なエネルギー源であるとともに、我が国の食料自給率にも大きく貢献しております。

一方、人口減少に加えて、消費者の甘さを控える傾向が顕著となるなど、その消費量は年々減少を続け、最近ではコロナ禍における土産物需要の減少も重なり、より大きく落ち込んでおり、いまだ回復には至っていない状況にあります。

このような中、農林水産省は去る 11 月、てん菜糖の交付金の対象数量を現状の 64 万トンから、令和 8 年には 55 万トンまで減産する方針を示しました。

肥料価格が高騰するなど厳しい経営状況にある中、畑作農家は来年の営農に向けて準備を始めているところですが、この度の決定に対して大きな不安を抱えております。

知事は今般の国の方針をどのように受け止め、本道の畑作の振興に向け、今後どのように対応していくのか伺います。

(答弁：知事 鈴木直道)

- ・てん菜は本道の畑作農業に欠かせない輪作作物。製糖工場は、地域の雇用や経済に重要な役割がある。
- ・近年の砂糖の消費量の減少や在庫の増加、糖価調整制度の累積赤字の拡大などにより、国は、てん菜糖への交付金の対象数量を令和8年に55万トンへ段階的に減少する方針を示し、地域の畑作農家が、今後のてん菜の生産に不安を抱いているものと認識。
- ・道としては、国の事業を活用し、需要の大きな作物の増産、低コスト化に向けた普及センターによる技術指導、関係機関や団体と連携した砂糖の消費拡大などを進め、てん菜の安定的な生産と、本道畑作農業の持続的な発展に取り組む。